

松下幸之助記念財団 研究助成

研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】

小坂理子

【所属】(助成決定時)

東京大学大学院 医学系研究科 国際保健学専攻 人類生態学教室

【研究題目】

インドネシア・スダ農村の人びとにとっての「健康的な」食事とは何か？

【研究の目的】(400字程度)

人びとはどのようなものを健康的な食物と認識するのか。その背景には、どんな状態を健康／不健康とみなすかという健康観がある。スダ農村の人びとは肥満や痩せ、高血圧などを健康問題として意識することはほとんどなく、健康について私たちとは異なった見方をする。この認識が、健康的な食物であるかどうかの判断を裏打ちしている。本研究では、スダ農村の人びとが健康的と考える食事とはどのようなものか、彼らの健康観を通して理解することを目指す。

食行動の動機や食物選択の理由について尋ねる質問紙は、主としてヨーロッパの国々において開発されてきた。そのほとんどに Health というカテゴリーが含まれるが、それらはみな適正な体重や体型の維持、低カロリー、低脂肪な食品が健康的であるということを前提としている。すなわち、体重や体型、栄養に関して異なった健康観をもつ人びとを想定していないのである。これまで、さまざまな地域における人びとの健康観は主に人類学の分野で研究がなされてきた。食行動の動機や食物選択の理由についての研究は栄養学の分野で行われ、ここにおいては人類学が扱う健康観との関連の議論が不足していたと指摘できる。本研究はこのギャップをうめるものである。

【研究の内容・方法】(800字程度)

[調査対象]

インドネシア・西ジャワ州スメダン県は、250万人の人口を擁する都市であるバンドン市に隣接する地域である。森林や農地が広がるなかに点在する町をバンドン市からの幹線道路がつなぎ、分岐した道の先には村落がある。市場経済が浸透しつつあり、賃金労働に従事する者も多い幹線道路沿いのエリアから一定の距離のある村落2か所を選定した。さらに村内のRT (*Rukun Tetangga* の略; 住民による自治の最小の単位)のうち、規模や調査の便を考慮して1つずつを選び出し、当該RT内のすべての世帯の学齢以上の住民を対象として以下の調査をおこなった。なお、1つのRTは概して50~100の世帯からなる。

[調査方法]

1. 質問紙を用いた聞き取り調査
 - 基礎的な情報 (氏名、生年月日、婚姻状況、学歴等)
 - 具体的な食品の例を挙げて健康によいかどうかの判断を問う項目
2. 食物摂取の理由を問う既存の質問紙 (The Eating Motivation Survey: TEMS; Rennar et al., 2012) を用いた聞き取り調査
3. 質問紙を用いない聞き取り調査
 - 過去や最近の食事について内容や量と選択の動機などを問う項目
 - 過去の主な疾病罹患歴

(参考文献)

Renner, B., Sproesser, G., Strohbach, S., & Schupp, H. T. (2012). Why we eat what we eat. The Eating Motivation Survey (TEMS). *Appetite*, 59(1), 117-128.

【結論・考察】(400字程度)

TEMSは食物摂取の理由を尋ねる質問項目からなる質問票で、本研究では45の質問からなる簡易版を用いた。回答からは食物摂取の動機としてHabits、Health、Priceなど15のスコアが算出される。回答を得た164名のスコアの分布は下図のようになった。食べ慣れている(Habits)、空腹である(Need & Hunger)、手軽に準備できる(Convenience)といった要因が強く働いていることが読み取れる一方、健康(Health)、体重管理(Weight Control)などのスコアは低得点に偏っており、食物摂取の動機としてはあまり意識されないようであった。

16歳以上の一部の対象者にさまざまな食品名を挙げて健康的であるかどうかを回答してもらった調査への回答のおおまかな傾向としては、ポテトチップス、塩、油、カステラなどを含めほとんどの食品について「健康的である」との回答が多くを占めた。なかでも30~40歳代で「健康的な食品である」との回答の割合が高く、それより若い年齢層と高い年齢層で「健康的な食品でない」と回答する割合が高くなっていった。また、食品が健康的かどうかの判断は、20歳代の若い年齢層では教育やメディアを通じた健康情報に強く影響されている一方、50歳代以上の高い年齢層では回答者自身の経験に基づいていることが多かった。

以上からは、健康の維持や体重管理の意識は食品を選択・摂取するにあたって強く働くこと少なく、加えて食品が健康的であるかどうかは年齢によって判断の基準が異なっていることが示唆される。今後、上記に加えて実施した質問紙を用いない聞き取り調査の回答を加味して考察を深めたい。

